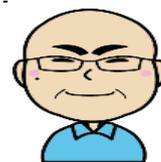


# ～みなさん「想い」を聞いてください～



◆コロナワクチン接種が進められています。接種する・しないは、個人の選択によるものです。個人を尊重し寛容で住みやすい地域社会づくりが大切です。

## 「コロナ退散」祈願祭（荒川センター長）



6月27日、高宮町川根地区の沖原山神社と亀尾山神社で、「コロナ退散」祈願祭が行われました。

祈願祭では、三上宮司による疫病退散祈願祝詞奏上が執り行われ、その後、高宮町川根を拠点に活動する梶矢神楽団により、疫病退散を祈願する舞が奉納されました。

演目は、すさのおのみこと素戔鳴尊が病魔を退治する「しょうぎ鍾馗」。梶矢神楽団の鍾馗は、1954年、県無形民俗文化財に指定されています。

「鍾馗」・・・備後国風土記に由来すると伝えられる舞です。素戔鳴尊が鍾馗大臣と名乗り、病をつかさどる大疫神と激しい戦いの末、退治する物語です。大疫神は疫病を撒き散らして人々を苦しめますが、鍾馗大臣にはその姿がみえません。そこで鍾馗大臣は、魔力で隠している本性をあらわにするという「茅の輪ち」をかざし、その輪の中に大疫神の姿をとらえ退治しました。



世界保健機構（WHO）が、新型コロナウイルスの感染拡大がパンデミック（世界的な大流行になった）との認識を示してから1年以上となりました。世界全体の感染者や死者の増加のペースは緩やかになっているものの、いまだに収束が見通せない状況となっています。1日も早くコロナが収束し、通常的生活を取り戻せる事を願っています。



### ◆父親の運転免許更新「さあ~どうする」（八島指導員）

近年、テレビ・新聞等でよく耳にする高齢者運転事故、我が家もこの問題に関係する父親の免許更新をどうするかについて直面しました。

6月2日の夕方、父親と運転免許の更新をするかしないか話し合いをしました。そのきっかけとなったのは、5月24日警察に更新手続きに行った結果、診断書の提出が必要になったからです。病院からは家族の同伴を求められました。父親は、「まだまだ出来る、運転したい気持ち」と「運転に対して自分は本当に大丈夫なのか、不安な気持ち」とで、正直悩んでいる様子がよくわかりました。

「そうになってからは遅いじゃろ」・・・テレビで見るような高齢者の運転中の事故（ブレーキとアクセルを間違えた）を例に出して、更新を諦めるように、私の思いを伝えました。その話をすると、「まだ大丈夫」「まだできる」と言う言葉がすぐに返ってきます。その次に「しかし・・・のお」と言う言葉。この繰り返しでした。しばらく、同じ内容の繰り返しをした後に、事故をおこしても「気の毒よのお~」と言うてくれるもんはおらんよ・・・非難をされても同情はしてくれんよと言いました。少し言い過ぎたかなと思いましたが、父親はしばらく考えた後に、「更新するのをやめるよお~」と言ってくれました。正直まだ大丈夫とは思いますが、今が潮時だと思います。正直こんなに早く決断してくれるとは思っていませんでした。父親に改めて「すまん、よく言ってくれた。」「ありがとう」の言葉を伝えました。決断はしたものの数十年運転してきた、自負があり、心の整理をつけることは、難しかったと思いますし、今でも迷っていると思います。話をした後、親父の表情が少し寂しそうに見えました。

公共交通手段の少ない田舎では、車は大切な移動手段であり、生活するために欠かせないものです。しかし、現実の問題として、遅かれ早かれ免許は返納しなければなりません。その時、だれがどう支えていくのか、それが、公共サービスを含めその方により身近な家族、近所同士、地域だと思えます。返納後、父母の生活は確実に不自由を感じると思えます。私一人では、カバーできませんが、妻や姉にも助けてもらい、両親の生活を支えるように考えています。

追伸、私自身も父親に「返納」を促した責任を果たす日・・・いつか自分の子どもから「運転免許証」の返納について、説得される日がくることを覚悟しなければと感じています。父親と同じように潔い決断ができるように・・・

◆追伸、これからも引き続き、感染防止対策を意識し、「マスク着用」「繰り返し手を洗う」などの行動をしっかりと行いましょう。「自分を守る、家族を守る、地域を守る」に繋がります。

先月号で約束しました、「ヤステ」について報告します。一年前に出沒した「ヤステ」（一見ムカデに似た益虫）は、今のところ出沒していません。雪が降る・降らないが影響しているのでは・・・つまり温暖化の影響でしょうか？